



西田 稔 議員

子どもたちの明るい未来のために、今やるべきこと

Uターン促進について

問 来春大学、専門学校を卒業予定の高山市出身者数とUターン希望者数は。

答 個人情報関係からUターン就職を希望する人数はわからない。しかしUターン就職促進のため飛騨管内の高等学校の協力や本人及びご家族の同意を得ながら高校生の進学先を把握し市内企業の情報を発信していく。

問 Uターン者数増加のための働きかけは。

答 新卒者を対象にした就職ガイダンスを年3回実施しているほか、地元の高等学校の協力を得て、大学進学者に就職ガイダンスの開催情報や高山市の事業所

を紹介する職場ガイドを送付している。またUターン就職する若者に対して支援金を支給し、Uターン就職を促進している。

問 起業したいと思った人が、まずどこに相談に行ったらよいかをもう少し分かりやすく周知する必要があるのではないか。

答 広報「たかやま」をはじめ、ホームページにより創業支援制度を周知するとともに、関係各所にチラシを配布している。

問 平成26年度に実施した企業セミナーの参加者及びセミナー終了後の起業状況は。

答 平成26年度に受講した39名のうち7名が市内で起業している。

問 林業・就農体感ツアー

はどれだけ移住に結びついているのか。
答 林業体感ツアーでは延べ23世帯30名参加のうち3世帯9名が、就農体感ツアーでは延べ74世帯91名参加のうち9世帯11名が高山へ移住された。

高山市図書館を使った調べる学習コンクールについて

問 市教委が主催するコンクールの趣旨・目的は。

答 子どもたちが情報社会の中で自らの課題に対して主体的に考え、必要な情報を取捨選択しながらまとめ解決していく力、「生きる力」を身につけるためにコンクールを主催している。



高山市図書館「煥章館」



車戸 明良 議員

「健康寿命日本」をめざして市を挙げて健康づくりを!

健康寿命の延伸

問 日本は、世界一の長寿国になっているが、元気で長生きできないければ、本人はもとより家族、社会全体に明るさは見えてこない。健康寿命とは、一生涯のうち健康で自立して暮らすことの出来る期間。高山市の健康寿命は、何歳か。

答 厚生労働研究班の算定方式で調査した。結果は、男性76・67歳、女性81・17歳である。

問 健康寿命の全国平均は男性78・17歳、女性83・16歳となっており高山市は低い。1位の長野県と比べると、男女ともに、2・8歳程低い。「健康寿命日本」の目標を掲げ、市を挙げて健康づくりを

展開しては。 **答** どう意識を高め、何を行うのか、健康づくり推進協議会や医師会、長寿会などと協議して日本一を目指したい。

健康づくりの推進の取り組み

問 特定健診受診者の生活習慣病治療者の割合が高い。中学生から一般健診を取り入れ健康管理の意識向上を図ることや、若い世代からお年寄りまで、簡単でわかりやすい健康づくりの推進は。

答 食育・歩き・ラジオ体操などをはじめ、中学生の健診も検討していく。

問 高齢者健康教室の効果と認知症予防の取り組みは。

答 参加者の要介護認定

率は低くなっている。認知症予防は、今年から講座を実施する。
外国人観光客の購買需要の取り組み

問 高山市における免税店の状況と、それを活かした商業の活性化への取り組みは。

答 市内の免税店舗は、29件あり外国人観光客の来店も増えている。現在、新たに約30の事業者が免税店舗を検討しており、推進する。

問 通訳案内士の育成(中心市街地特例)の取り組みは。通訳ガイドの活動は経済活力の向上につながるのではないか。

答 対象言語は英語として全国から募集し、6回の講座を開催して試験により市の通訳案内士として認定する。10月から活動してもらうよう準備を進める。ガイド付き着地型・滞在型ツアーの促進や物販にもつながると期待している。